

## 要 旨

The Relationship Between Metacognition  
and English Reading Ability

上野 裕子

英語教育分野において、ふりかえり内容の質の深さと英語読解力の関係を調査した研究は少ない。本研究は、メタ認知と英語読解力の関係を調べることを目的とし、メタ認知をふりかえり（自己省察）の質の深さから考察することを試みた。また日本の外国語学習者が学術的な英語の文章を読むとき、どのような読解プロセスが働くのかを把握するために、リーディングストラテジーに関するメタ意識を測る質問紙調査（MARSJ）を実施した。この論文の研究課題は4つあげられる。(1) 日本の大学生はリーディングの授業でどのようなふりかえり内容を記述するのか、(2) どのようなリーディングストラテジーに関するメタ意識の要因をもっているのか、(3) ふりかえり内容の質の深さは、その要因と関係があるのか、(4) ふりかえり内容の質の深さと英語読解力は関係するのか。

英語圏留学を目指す学科に所属している日本の女子大学1年次生73名を対象に英語圏及び日本の大学における英語文献の基礎的読解力の養成を目指すリーディングクラスで実施した。ふりかえり内容を分析するために、Hatton & Smith (1995) によるふりかえり内容の段階別評価を、レベル1（根拠のない単なる記述や感想）、レベル2（具体的なふりかえり）、レベル3（根拠のある分析的なふりかえり）、レベル4（多角的視野でのふりかえり）と解釈し、4ヶ月間のふりかえり内容を4段階に分類し数値化した。

研究の結果、以下のことが明らかになった。(1) リーディングスキルに関する記述が多く、学生はトップダウンプロセスのリーディングストラテジーや速読のスキルが必要であると認識していた。また、ふりかえり内容の質が高い学生ほど、リーディングトピックの内容まで言及し、分析的で多角的視野から自己省察を行い、目標を明確に記述していた。(2) 質問紙調査においては因子分析の結果5つの因子を抽出した。

それらを文単位処理、テキスト全体処理、内容理解を深める処理、情報をつなぎ合わせる処理、スキミング処理と命名した。結果、学生は学術的な英語の文章を読むとき文単位処理であるボトムアッププロセスのメタ意識が最も高いことがわかった。(3) ぶりかえり内容と (2) で抽出した 5 因子との関係を調べた結果、質の高いぶりかえりをしてきた学生は、そうでない学生と比べて、視覚ストラテジーを含むテキスト全体処理であるトップダウンプロセスのメタ意識に差異が生じた。(4) ぶりかえり内容の質の深さと英語読解力の関係においては、統計的に弱い相関関係が見られた。